

令和7年度 学校評価報告書【定時制】（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②専門教育充実のため、三修制希望生徒への支援、資格取得の推進、企業や職業技術校等との連携体制の確立など、夜間定時制高校として魅力をより一層充実する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。</p>	<p>①基礎学力の定着と工業の専門性向上を実感できる授業づくりを行う。卒業後の進路を見据えて学習に取り組むことができるよう支援体制の充実を図る。</p> <p>②国家資格取得に向けた支援体制の充実、企業や職業技術校等との連携を図り、夜間定時制の工業高校として魅力的な教育活動を展開する。</p> <p>③学校行事や生徒会行事の充実を図る。</p>	<p>①組織的な授業改善のテーマの一つとしてICTを効果的に活用した授業づくりを設定し、定時制全体で取り組んでいく。新課程の三修制生徒の卒業に向けて、丁寧な学習支援を実施する。</p> <p>②キャリアプランにおける資格取得の有用性を生徒に伝える取組を粘り強く行うとともに、合格に向けた指導体制を充実させる。外部機関との連携の在り方を整理する。</p> <p>③学校行事や生徒会行事の事前指導を充実させ、各行事のねらいを明確にすることにより生徒が主体的に参画できるよう指導する。</p>	<p>①ICTを効果的に活用した授業づくりに定時制全体で取り組むことができたか。生徒による授業評価等で学習に対する自己評価が向上したか。三修制希望生徒が卒業することができたか。</p> <p>②国家資格等の受験率や合格率が向上したか。外部機関と連携を深めることができたか。</p> <p>③学校行事や生徒会行事に生徒が自分事として主体的に参画していたか。</p>	<p>①ICTの利活用をテーマとした授業改善に定時制全体で取り組むことができた。三修制希望生徒も良好な成績を収めており、卒業見込みである。</p> <p>②昨年度と比較して第二種電気工事士の受験者数が増加し、新たに無線従事者の国家資格を取得する生徒が増加した。</p> <p>③4月に実施される遠足は昨年度より参加人数が減少してしまったが76.7%の生徒が積極的に参加しクラスの親睦を深めることができた。交通安全教室や生徒総会には80%超の生徒が出席できた。</p>	<p>①生徒自身のICT活用能力の向上については更なる改善の余地がある。組織的な取組を継続し、基礎学力の定着と専門性の向上を実感できる授業づくりを推進する。</p> <p>③定時制全体の資格受験率は、昨年度から11%低下している。生徒が資格に挑戦しやすい支援体制を充実させること、外部機関と連携した魅力ある教育活動の充実が課題である。</p> <p>③今後も行事に対して生徒達が主体的に参画できるよう、より良い学校行事の在り方を引き続き検討する。</p>	<p>①ICT利活用の組織的取組で授業改善が進み、三修制の成果も顕著。今後は生徒の技能向上を焦点に基礎学力定着と専門性を実感できる授業を推進し、更なる教育の質向上を期待する。</p> <p>②電気工事士の受験者増や無線従事者の新規取得が進み、資格取得を通じた専門性の向上が着実な成果として現れた。更なる活性化に期待する。</p> <p>③遠足の参加者は減少したが7割超が親睦を深め、諸行事の出席率は8割を超えた。今後は主体的参画を促す行事の在り方を検討し、更なる活性化と魅力向上を期待する。</p>	<p>ICTを活用した授業改善がなされ、生徒の基礎学力の向上が図られている。三修制による卒業を目指す生徒の希望を叶える支援がされており、目標を達成している。</p> <p>国家資格の取得が進んでおり、目標を達成している。資格・検定の取得は生徒の将来を生き抜く力となるので、生徒への資格啓蒙活動の推進をお願いしたい。また、物価高騰の折、資格検定試験の受験費用も高額になっている。生徒が受験しやすいような経済的な支援を県教委に働きかけを検討してください。</p>	<p>教員のICTスキルは向上しているが、生徒のICT利活用は個人差が大きい。生徒の習熟度に応じたICT活用場を授業内に設定し、個別のスキルアップを組織的に支援する。</p> <p>若年者就労支援制度の活用や、東京都が行っているような高校生資格取得受験費用の経済的支援を学校単独では限界があるため、専門学科高校として県教育委員会に働きかける必要がある。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を確立するとともに、基本的な生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②部活動の活性化や各種コンテスト、競技会への参加を通して、生徒の達成感、連帯感、責任感を涵養する。</p>	<p>①生徒一人一人に対応できる相談体制を確立するとともに、生徒の情報共有し、担任、学年外でも生徒の対応をしやすいとする。また、基本的な生活習慣の確立に向けたきめ細かい生活指導に取り組む。</p> <p>②「神奈川県立学校に係る部活動の方針」により、部活動の方針を策定し、教育課程と連携した部活動の活性化を図る。</p>	<p>①登校指導時に生徒から話しやすくなるように声かけをするとともに、生徒の対応から困りごとや課題を捉え、支援へとつなげる。</p> <p>②新たに策定する方針に従い年間指導計画を作成することで計画的な活動を行い、部活動の活性化に努める。</p>	<p>①登校時における声かけを行う。複数の職員で個々の生徒を観察して生徒の変化を捉え、支援が必要だと思われる生徒については担任、学年および家庭とも情報共有し支援につなげられたか。</p> <p>②年間を通して部活動の活性化を図り、主体的に部活動に参加した生徒が増えたか。</p>	<p>①正門・昇降口において登校指導・声かけを毎日行い、生徒の様子を確認しながら変化の見られた生徒の情報を担任に連絡し、個別指導へつなげることができた。</p> <p>②毎学期ごとの部活動集会以活動計画を立てながら部活動の活性化を進めることができた。今年度もバスケットボール部は西相・湘南地区定時制通信制スポーツ大会へ参加した。</p>	<p>①生徒の遅刻・欠席数が減少するような方策を検討しながら、基本的な生活習慣の定着に向けた声かけ指導を継続していく。</p> <p>②軽音楽部は主体的に参加する生徒が増加してきたが、夜間での大きい音量での練習が難しいため、極力効果的に練習できるような活動方法を検討・推進していく。</p>	<p>①登校指導を通じた状況把握と個別指導への連携を実現。今後は遅刻欠席の抑制を図り、基本的な生活習慣の定着に向けた組織的指導に期待する。</p> <p>②定期集会以部活動の活性化を推進。各部の大会出場や参加増した成果を評価する。今後、夜間の制約に対し効率的な練習法を検討し、生徒の主体的活動を継続支援に大いに期待する。</p>	<p>日々、生徒を見守る生徒指導がなされ、生徒の情報を共有しており、目標を達成している。</p> <p>部活動において大会に参加するなど、「生徒の活動を保障しており目標を達成している。生徒数が少なくなっている中、生徒の活動を保障する手立てが必要と思われる。</p>	<p>会議で共有された情報を個別の支援計画（指導記録等）に反映させ、組織的な継続指導を徹底する。</p> <p>軽音楽部の練習方法ではデジタル楽器の導入を検討してください。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導、支援の充実を図る。</p> <p>②これからの時代を生きて行くうえで必要な資質や能力を育成するためのキャリア教育を推進する。</p>	<p>①個々の生徒が卒業後の進路に対し、具体的なイメージが持てるよう指導する。</p> <p>②キャリア教育を推進するためのプログラムの充実を図る。</p>	<p>①LHR や面接等を通して、早い段階から生徒が卒業後の進路について、具体的に考えることができるよう指導する。</p> <p>②キャリア教育のねらいを明確にし、講演会等を実施することで、生徒が主体性を持って将来を考えることができるよう努める。</p>	<p>①個々の生徒の卒業後の進路希望を把握し、卒業までに進路実現に向けた指導をすることができたか。</p> <p>②地域の企業等にも協力をいただきながら、キャリア教育のねらいに沿った企画を実施することができたか。</p>	<p>① 生徒が主体的に取り組めるよう支援し、卒業予定者7名中1名が自営、1名が自衛隊に合格、2名が民間企業に内定、2名が就労継続支援事業所への就労、1名が大学への進学とすべての生徒が進路を決定することができた。</p> <p>② 今年度も継続して本校を会場に小田原高校と合同で進路懇談会を開催することで生徒達のキャリア意識が高まった。</p>	<p>① 従来の一般就労だけでなく自己の進路実現に向けた意識が広がり、就労継続支援事業所への就労を希望する生徒も出てきているため、事業所への就労にも組織的に支援できる体制を構築する。</p> <p>② 卒業後の進路に向け自分事として取り組めるようなキャリア教育に資する内容の講演会等を実施・検討する。</p>	<p>① 全卒業予定者の進路決定を実現。多様なニーズに応じた支援が奏功したことは大きな成果である。今後は福祉就労への組織的支援体制を構築し、進路実現を一層推進することを期待する。</p> <p>② 小田原高校との合同懇談会でキャリア意識が向上。今後は主体的な進路選択を促す講演会等の実施を検討すると良い。</p>	<p>卒業生全員が進路を決定という最高の結果が示されています。福祉就労など多様なニーズにこたえた点も特筆すべき成果です。</p> <p>小田原高校との合同進路懇談会の開催は生徒の進路意識の向上に有効である。</p> <p>今後は卒業生による進路講話を実施するなどキャリア教育を推進してほしい。</p>	<p>進路意識の向上や進路のミスマッチを防ぐためにも卒業学年時における、地域と連携したインターンシップや課題研究における現場実習を実施。</p> <p>「卒業生による進路講話」は定時制生徒にとって非常に説得力があるので学校行事に位置付ける。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域産業や地域社会との連携、協働による教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。</p>	<p>①地域産業・地域社会、近隣の小中学校等との連携・協働に取り組む。</p> <p>②広報活動を、引き続き積極的に行い、本校定時制の魅力や特色をより分かりやすく情報提供できるよう努める。</p>	<p>①文化祭に地域の方を招くなど、地域と連携・協働した行事を実施するとともに、生徒の自己肯定感を育むため、地域の小中学校で行われる行事等に参加する取組の充実を図る。</p> <p>②本校の魅力をより詳しく広報するため、ホームページを中心に ICT を活用した情報発信を積極的に行う。また、学校説明会や中学校訪問を通じて、授業や実習など普段の工業高校らしい様子を随時見学できることを発信していく。</p>	<p>①地域の方や近隣の小中学校等との連携・協働した取組を充実させることができたか。</p> <p>②ホームページをより分かりやすい内容に整理し、常に最新の情報発信を行うことができたか。また、本校の特色である定時制や資格取得について、分かりやすく説明できたか。</p>	<p>① 体育祭では、多くのPTA・保護者、在校生兄弟の参加や協力を得ることができた。地域貢献活動では日頃の感謝を込めて通学路のゴミ拾いを実施し地域の美化に貢献できた。</p> <p>②ホームページの内容を整理し、最新の情報を発信することができた。学校説明会や中学校訪問を通して定時制の魅力を広く周知することで、中学生や保護者の学校見学につながることができた。</p>	<p>① 近隣の小中学校との連携・協働で実施が可能と思われる行事の検討をし活動の推進を図る。</p> <p>②次年度に向けて新校ホームページの充実を図るとともに、多様な学びの選択肢の1つとして定時制の魅力により多くの中学生と保護者に周知することが課題である。</p>	<p>① PTA や地域の協力を得て体育祭を成功させ、美化活動で地域貢献。今後は近隣小中学校との連携を深め、交流行事の活性化を検討すると良い。</p> <p>② HP 刷新と説明会・中学校訪問で定時制の魅力を広く周知し、見学者増を実現。今後は新校HP を充実させ、多様な学びの選択肢として更なる情報発信がされることを期待する。</p>	<p>体育祭への家族の参加や地域貢献活動など、具体的な活動が支援されています。</p> <p>さらに地域の方も参加できるようにすると生徒のやる気を引き出せると思われる。</p>	<p>地方の小規模学校のような地域と連携した「地域住民や近隣小中学校が参画可能なワークショップ型行事」の検討。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。</p> <p>②研修による意識啓発、業務の共有、協働、効率化をめざし、働き方改革の推進と不祥事の未然に防止を図る。</p>	<p>①防災や危機管理の面から教育環境の整備及び点検を進め、安全・安心で快適な環境のもとでの学習活動の活性化を図る。</p> <p>②各グループ・班の業務内容や分担を再点検し、業務の相互補助や協働を進め、効率化と進行管理の徹底を図る。また、不祥事に対する当事者意識を醸成し、事故の未然防止につなげる。</p>	<p>① ICT の活用に向けて生徒への支援、教員の研修を充実させる。また、防災訓練や防災教室を実施し、地域・保護者の協力、状況に応じた生徒の防災行動を身に付けさせる。</p> <p>②各業務の共有化により、主・副担当の相互補助を進め、必要に応じて全体での協働作業による効率化を図るとともにGLや班長は、業務の進行管理に気を配る。また、不祥事ゼロプログラムをもとに不祥事防止研修会を設定する。</p>	<p>①生徒も教員も ICT 活用に取り組むことができた。防災訓練や防災講演会の実施により、生徒の防災意識の向上を図ることができたか。また、地域・保護者との協力体制を整備することができたか。</p> <p>②職員相互の連携が取れて、業務が一人に集中することなく、遅滞なく業務が遂行できたか。また、不祥事が起こることがなかったか。</p>	<p>①生徒も教員も ICT 活用に取り組むことができた。地域住民や保護者と連携した避難訓練、年間計画に基づいた防災教育により、生徒の防災意識を高めることができた。</p> <p>② 年度初めに不祥事防止項目に沿った担当グループ、班を設定し業務が集中しないように設定。これまで、計画通り実行している。</p>	<p>①次年度以降は教室配置が大きく変わることから、生徒自身が考える防災教育を充実させるとともに、避難訓練をより実践的な内容とすることが課題である。</p> <p>② テーマのマンネリ化や時期等のずれに注意を図り計画的に実行し当事者意識が持てるよう工夫する必要がある。</p>	<p>① 地域連携の避難訓練を推進し、生徒の防災意識を向上させた。次年度は新教室配置に合わせ、生徒が主体的に考案する実践的な防災教育の充実と訓練の高度化を期待する。</p> <p>② 業務を分担し不祥事防止研修を計画通り実施。今後はマンネリ化を防ぎ、当事者意識を高める内容の工夫を進め、引き続き不祥事0を継続するようお願いする。</p>	<p>ICTの活用と防災教育の連動が評価されています。</p> <p>夜間すべての照明がロストした場合を想定した避難訓練の実施が必要です。</p> <p>今年度事故不祥事がなかったことは喜ばしい。</p>	<p>発災時間や場所を秘匿した実践的な訓練を年間計画に組み込み、対応能力の向上を図る。</p> <p>新校のタイミングで業務のスリム化を推進するなど、教員の働き方改革の実効性を高めてください。</p>